

英語活動部 主な研究内容

問題意識

本校の英語活動部では、教科化に向け、自分の思いや伝えたいことを表現する「ことば」を追求し、外国語でコミュニケーションする楽しさを体験的に学んでいける授業を目指す。そのためには、語彙や文法等の無機的な暗記ではなく、教師や仲間と相互にかかわり、外国語としての英語を母語やこれまでの言語経験を生かしながらコミュニケーションをするための「ことば」として獲得し、獲得した「ことば」を実際に活用していくことが大切であると考えている。なぜなら、そうすることで英語の「ことば」のおもしろさや、英語が世界に繋がっていく「手段」として重要なものであることを、子供一人ひとりが心と体で感じ学ぶことができるからである。

1 研究テーマ

自分の「ことば」を追求し、進んで英語で表現する子の育成

2 育てたい子供像

- 興味関心をもって、コミュニケーションの手段となる英語にかかわる子
- 英語活動を通して、英語や母語への気付きを深める子
- 協働的な活動を通して、コミュニケーションにおける見方や考え方を広め深めていく子
- 他者に配慮しながら、英語で自分の思いや考えを表現することを楽しむ子

3 主な研究内容

「こえる学び」を生むためには、英語活動が子供にとって目的意識をもって主体的に英語で表現し伝え合いたいという授業でなければならない。そのためには、教師が子供の実態を分析し、子供の思いや願いに傾聴すると同時に教師の子供に願う学びが行われる「学習材」「学習活動」を含んだ学習環境をデザインしていくことが求められる。さらに、コミュニケーション能力を育てるには、コミュニケーション活動で終わらせてはいけない。子供が自らの学びを自覚したり振り返り等で可視化したりすることが大切であると考えている。そうすることで、①自分の学びを客観的に捉え新たな課題を見つけるメタ認知が可能になるだけでなく、②他者との学びの共有や交流といった学び合いが効果的にはたらき、③子供が英語という「ことば」に対してさらなる学習意欲を高めるといふ、子供たちの「こえる学び」の姿を捉えることができると考えている。

こうした「学習材」「学習活動」「振り返り」を重点として、子供たちが英語という「ことば」の面白さや英語が世界に繋がっていく「手段」として重要なものであることを、子供たち一人ひとりが心と体で感じることができる学習環境デザインを構築していきたい。